

長房中学校区及び八王子市の現状

目次

1 長房中学校区の現状

(1) 人口・世帯数(市全体との比較).....	02
(2) 児童数・生徒数.....	06
(3) 中学校区別の公共施設のデータ.....	07
(4) 地域ヒアリングの結果.....	08

2 八王子市の現状

(1) 人口.....	12
(2) 暮らし・福祉.....	14
(3) 教育・子ども.....	17
(4) 防災.....	20

長房中学校区の現状

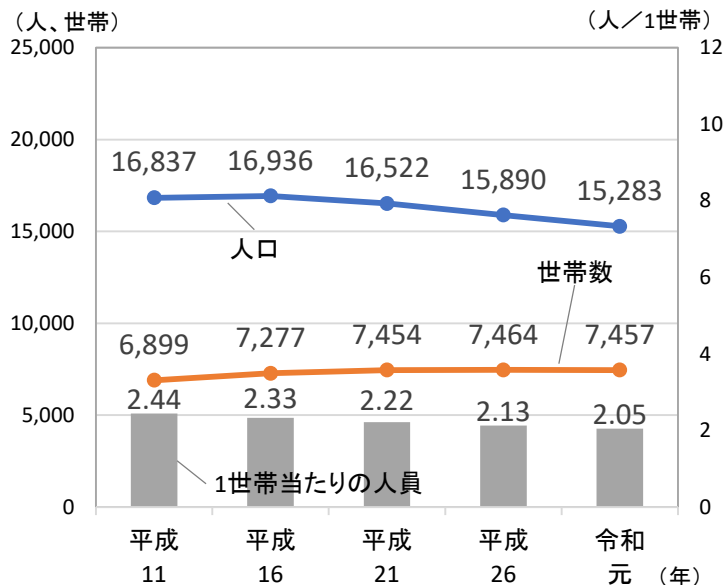
★本章では、各地域に関するデータや地域ヒアリング結果を紹介します。
地域特有の課題や地域団体の具体的な取り組みを取り上げています。

(1) 人口・世帯数(八王子市との比較)

- 長房中学校区の人口は、平成16年以降、減少傾向にあります。八王子市全域では、平成26年まで増加傾向にあり、それ以降はやや減少しています。
- 長房中学校区の世帯数は、平成21年まで増加しており、それ以降は横ばいで推移しています。

■人口・世帯数・1世帯あたりの人員の推移

<長房中学校区>

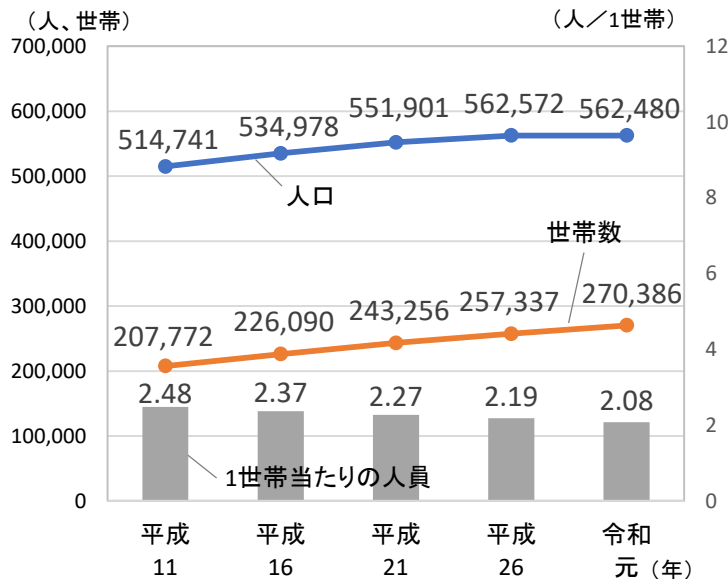


出典:「町丁別世帯数及び人口報告表」

※長房中学校区の通学区域に含まれる町丁目全域の数字を含めている

(長房中学校区の通学区域:城山手一丁目全域、城山手二丁目全域、長房町一部)

<八王子市>

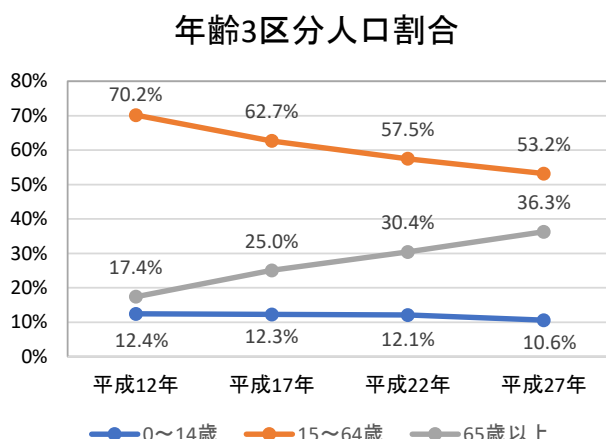
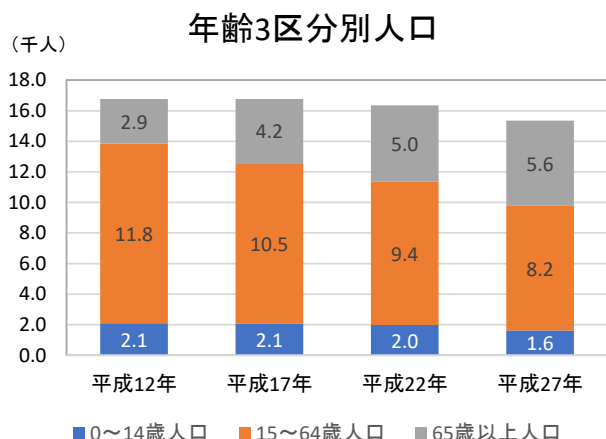


出典:「町丁別世帯数及び人口報告表」

- 長房中学校区の人口構成は、八王子市全域と比べ、「15～64歳」の人口割合が低く、「65歳以上」の人口割合が高い地域です。
- また、八王子市全域と比べ、すべての年で人口減・人口増の傾きが市全域よりも大きく、市内でもより高齢化が加速している地域と言えます。

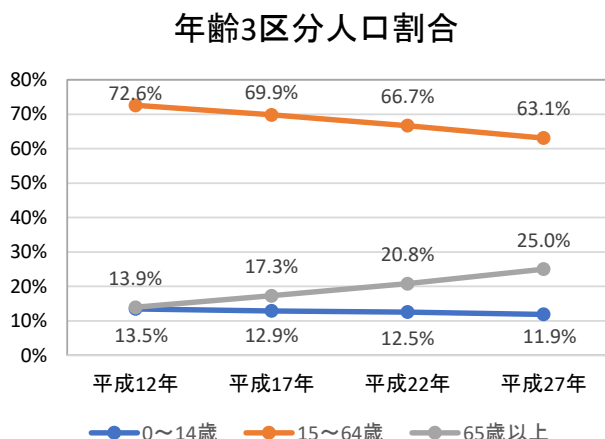
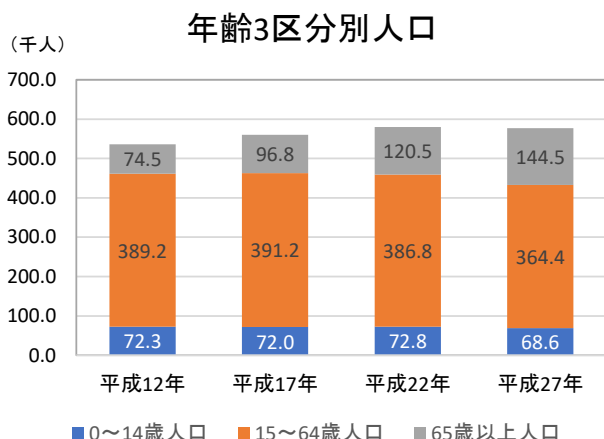
■人口構成(年齢3区分別人口)

<長房中学校区>



出典:「国勢調査(2000年、2005年、2010年、2015年)」総務省統計局(年齢不詳を案分)
 ※長房中学校区の通学区域に含まれる町丁目全域の数字を含めている
 (長房中学校区の通学区域:城山手一丁目全域、城山手二丁目全域、長房町一部)

<八王子市>

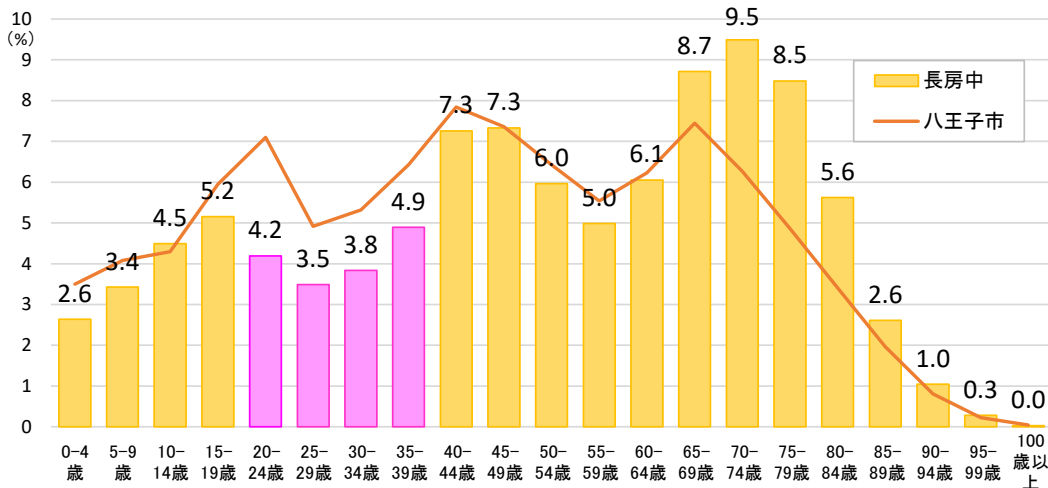


出典:「国勢調査(2000年、2005年、2010年、2015年)」総務省統計局(年齢不詳を案分)

(1) 人口・世帯数(八王子市との比較)

- 長房中学校区の人口構成は、八王子市全域と比べ、特に20～39歳までの大学生や若い働き手世代の割合が低くなっています。
- 長房中学校区の世帯タイプの構成比は、「高齢夫婦世帯」や「高齢単身世帯」の割合が増加している一方、「夫婦と子供世帯」や高齢者以外の「夫婦のみ世帯」、「単独世帯」の割合は減少しています。平成27年には八王子市全域と比べ、「高齢単身世帯」の割合が特に高くなっています。

■人口構成(5歳階級別人口構成)



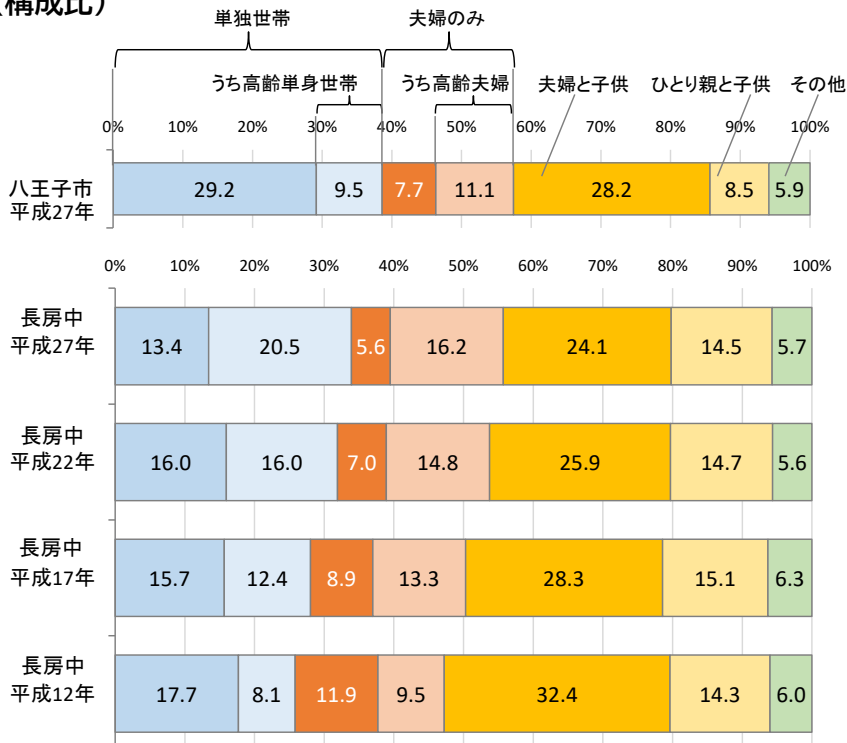
出典：「国勢調査(平成27年)」総務省統計局

※長房中学校区の通学区域に含まれる町丁目全域の数字を含めている

(長房中学校区の通学区域：城山手一丁目全域、城山手二丁目全域、長房町一部)

※年齢不詳を含まない構成割合

■世帯類型(構成比)



出典：「国勢調査(平成27年)」総務省統計局

※長房中学校区の通学区域に含まれる町丁目全域の数字を含めている

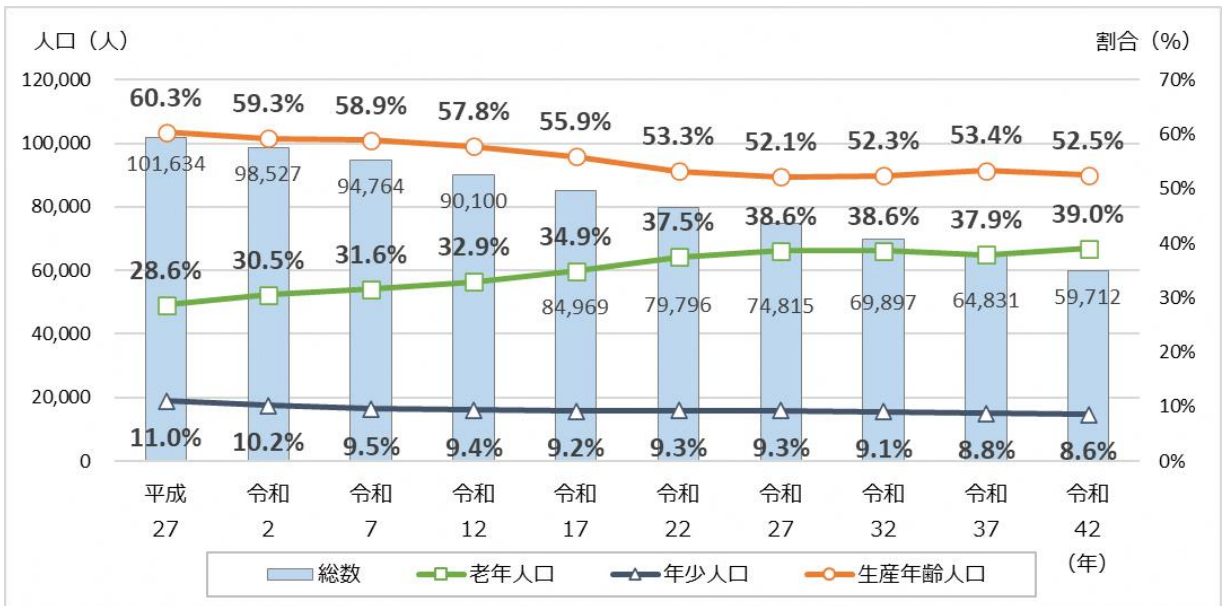
(長房中学校区の通学区域：城山手一丁目全域、城山手二丁目全域、長房町一部)

※不詳世帯をあん分補正している

- 西南部地域の将来人口は、八王子市全域と同様に減少すると推計されています。
- 老年人口の割合は令和27年まで増加し、以降は概ね横ばいで推移します。一方、生産年齢人口の割合は令和27年まで減少し、以降は概ね横ばいで推移します。

■将来人口推計、将来の人口構造

<西南部地域(浅川+館+横山)>



出典:「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略(2020改定版)」

<八王子市>



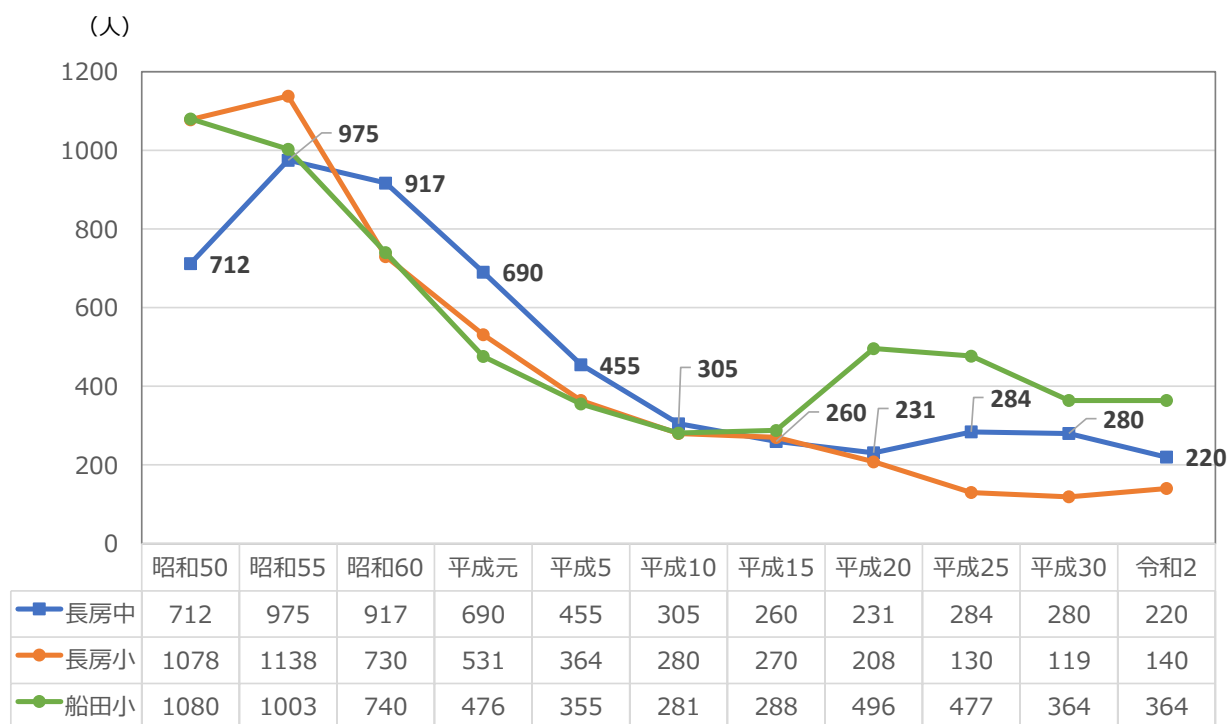
出典:「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略(2020改定版)」

(2) 児童数・生徒数

- 長房中学校の生徒数は、昭和55年は975人であったが、令和2年は220人に減少し、昭和55年に比べて23%に減少しています。
- 長房小学校の児童数は、昭和55年に1138人であったが、令和2年は140人に減少し、昭和55年に比べて12%に減少しています。
- 船田小学校の児童数は、昭和50年の1080人から減少した後、平成10年から増加傾向になり平成20年には496人となりました。令和2年は364人となり、昭和50年に比べて34%に減少しています。

■児童数・生徒数の推移

<長房中学校区>



出典:「はちおうじの教育統計(平成22年度、令和2年度(2020年度)版)」

(3) 中学校区別の公共施設のデータ

長房中学校区マップ



(1) 市が所有している施設の状況一覧(平成30年度(2018年度)末時点)

No	施設名称	延床面積 (㎡)	代表建物主体構造	建築年月	経過 年数	耐用 年数	残価率
1	長房中学校	7,503.42	鉄筋コンクリート造	昭和49年03月	45	47	30.65%
2	船田小学校 (船田小学童保育所第一・第二クラブ)	6,900.00	鉄筋コンクリート造	昭和49年03月	45	47	35.40%
3	長房小学校	6,591.00	鉄筋コンクリート造	昭和44年09月	49	47	50.28%
4	長房第一団地	13,651.81	鉄筋コンクリート造	昭和34年06月	59	47	34.42%
5	中郷児童館	432.00	鉄筋コンクリート造	昭和51年03月	43	47	5.22%
6	中郷児童館長房分館 (長房学童保育所)	414.06	鉄筋コンクリート造	昭和46年03月	48	47	0.13%
7	高齢者在宅サービスセンター長房	653.25	鉄筋コンクリート造	平成17年03月	14	47	69.45%
8	地域包括支援センター長房	105.68					73.69%

(2) 市が非所有の施設の状況一覧(平成30年度(2018年度)末時点)

No	施設名称	施設所在
U1	長房中央保育園	長房町588 都営西29号棟
U2	長房西保育園	長房町588 都営西8号棟
U3	長房ふれあい館	長房町588 都営西1号棟

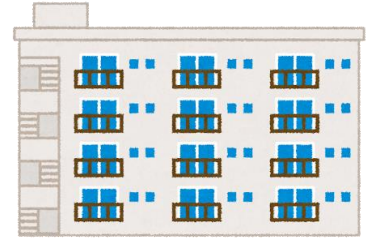
出典:「八王子市地域づくり推進基本方針」

(4) 地域ヒアリングの結果

地域づくり推進会議を開催するにあたり、地域の相談機関などにヒアリングを実施しました。その結果を取りまとめ、主な課題や現状を示した結果を紹介します。

①長房中学校校区の特徴

- ・長房団地は東、西、南ブロックに分かれ、**各団地の号棟ごとに自治会長**がいる。
- ・長房団地には、**4～5000人**が居住している。
- ・長房地域は**市内で2番目の高齢化率**で、特に長房団地の高齢化が著しい。
- ・鉄道駅から離れているため、公共交通は**バスが中心**である。



②長房中学校校区の課題

●生活弱者の増加

- ・老老介護や単身高齢者が多く、孤独死の件数も多い。
- ・高齢者から近隣トラブルや生活困窮に関する相談が多い。
- ・若者の引きこもりの相談も多い。

●交流機会・居場所が少ない

- ・団地単位にある各自治会の枠を超えた活動が少ない。
一方で民生委員からは団地の枠(自治会)を超えた地域の情報を聞くことができる。
- ・母親たちが日中に集まれる場所が児童館以外に少ない。
- ・地域で気軽に子どもを遊ばせる場所が少ない。
- ・子どもから高齢者までの多世代交流が求められている。

●マンパワーや活動の担い手の不足

- ・団地の支え合いネットワークは住民主体で続いているが、地域住民のみでは活動が停滞してしまう。
- ・高齢化が進んでおり、地域活動やサロン運営の次の担い手がない。
- ・支援が必要な子どもが多くいるが、接点を作り切れない。

●施設間の連携の促進

- ・高齢者の支援、子どもや子育ての支援など、活動領域の近い施設が離れて立地していることもあり、迅速かつ効率的な連携に取り組むうえでの制約がある。

●情報発信・共有の不足

- ・自治会毎に広報誌が異なり、地域の情報媒体バラバラである。
- ・個人情報観点から、共有できない情報が多い。

③地域課題に対する取組状況

- ・西団地連合会と西アパート連合会が協働し、住民主体で「見守りたい人」と「見守る人」をマッチングして支援する**支え合いネットワーク**を運営している。
- ・「**高齢者いきいきサロン**」が**9つ**ある。
- ・**長房高齢近所マップ**(平成25年作成)がある。
- ・新しい商業施設の**コピオ**1階にコミュニティスペースができ、イベント等の利用が可能となる。



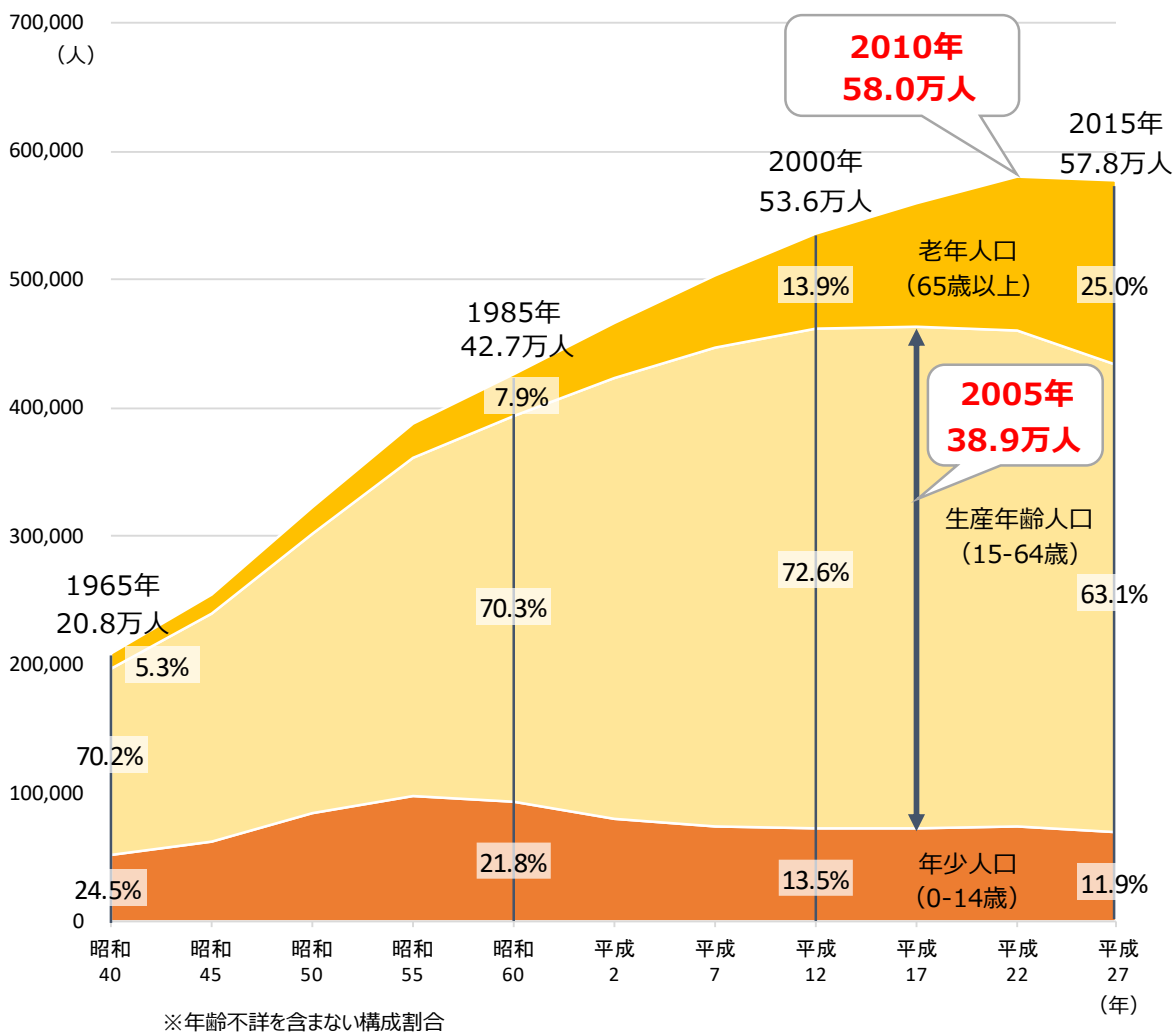
八王子市の現状

★本章では、八王子市の現状に関するデータを紹介します。
特に、地域連携や市民協働を考えるきっかけとなるデータを取り上げています。

(1) 人口

- 総人口は、昭和40年(1965年)に20.8万人でしたが、市郊外の宅地開発に加え、昭和50年(1975年)以降、多摩ニュータウンの入居が始まったことなどから急増し、平成22年(2010年)に58万人となりました。
- 生産年齢人口(15~64歳)は、平成17年(2005年)をピークに減少しています。
- 老年人口(65歳以上)は、人口及び割合がともに年々増加しており、平成27年(2015年)には割合が25%まで上昇しています(4人に1人が高齢者)。

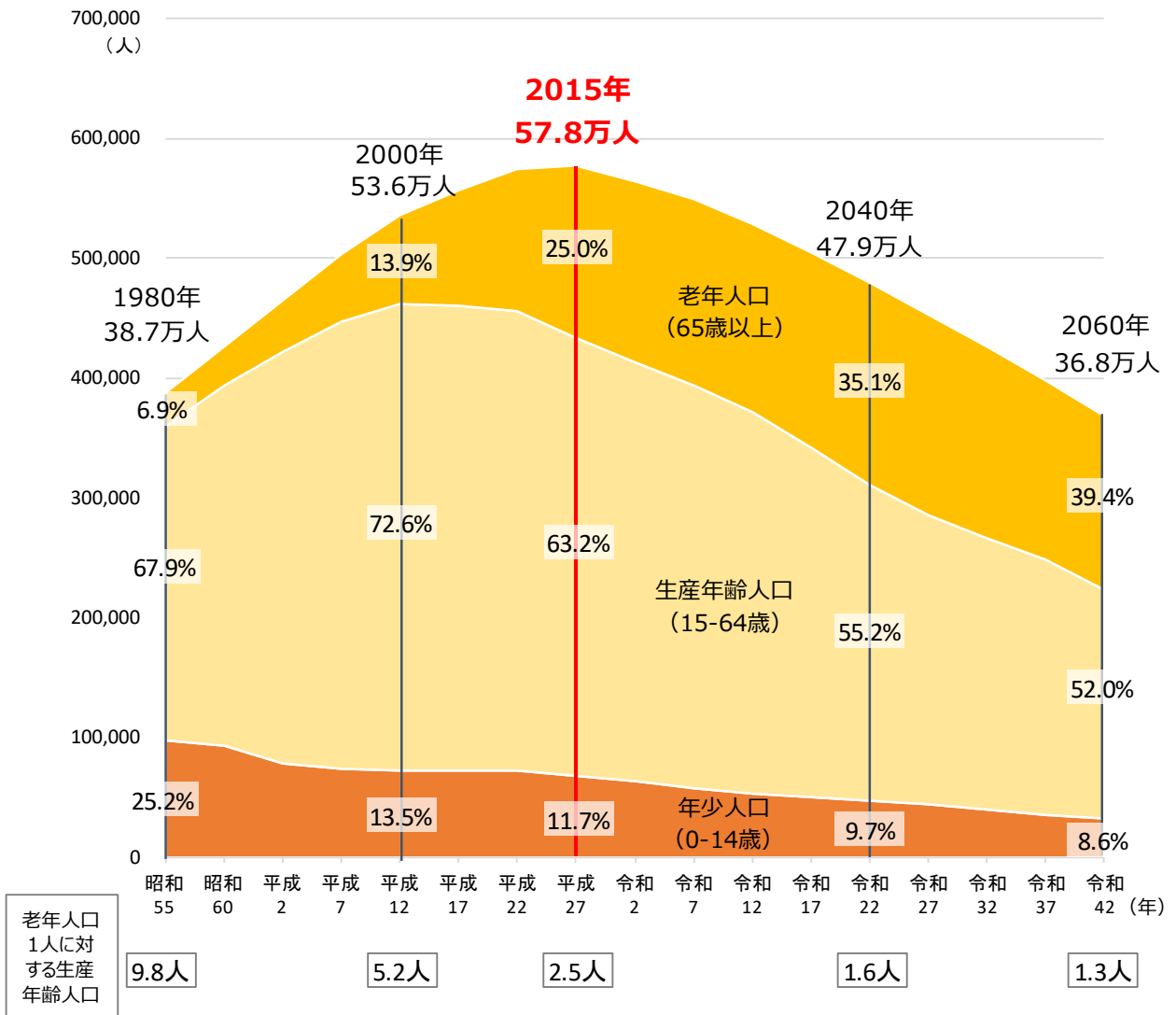
■人口の推移



出典:「八王子基礎データ集2020」

- 現在の状況が続くと、将来人口は、20年後の令和22年(2040年)に47.9万人、40年後の令和42年(2060年)に36.8万人になると推計しています。
- 生産年齢人口(15～64歳)の構成比は、平成27年(2015年)に63.2%でしたが、推計では令和42年(2060年)には52.0%となり、1人の老年人口(65歳以上)を1.3人の生産年齢人口(15～64歳)で支えることとなります。

■将来人口推計 ※合計特殊出生率(以下「出生率」という。)が1.26(平成27年)で、平成24年1月～平成29年1月の住民基本台帳人口の動向が継続した場合「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略(2020改定版)」シミュレーション1



※合計特殊出生率とは、「15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が一生の間に生む子どもの数の推計値。

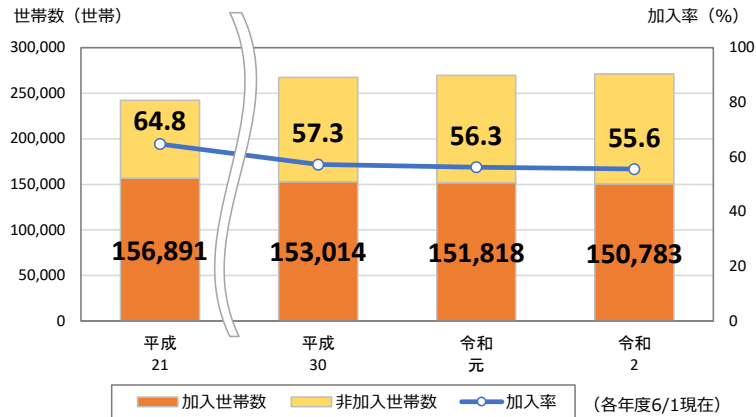
※平成22年以前は、年齢不詳を含まない構成割合。平成27年以降は、年齢不詳をあん分して含めた構成割合

出典:「八王子基礎データ集2020」

(2) 暮らし・福祉

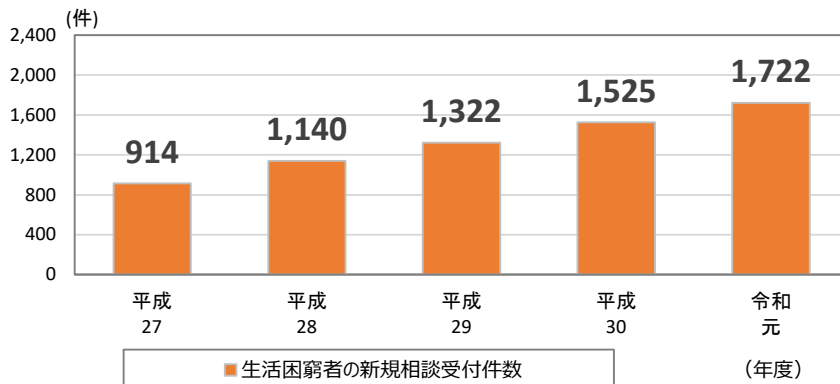
- 「町会・自治会の加入率」は減少傾向にあり、令和2年度には55.6%になっています。
- 「生活困窮者の新規相談受付件数」は年々約200件ずつ増加しています。
- 「生活保護」を受けている人員・世帯ともに減少傾向にありましたが、令和2年には、微増しています。

■町会・自治会加入世帯数及び加入率の推移



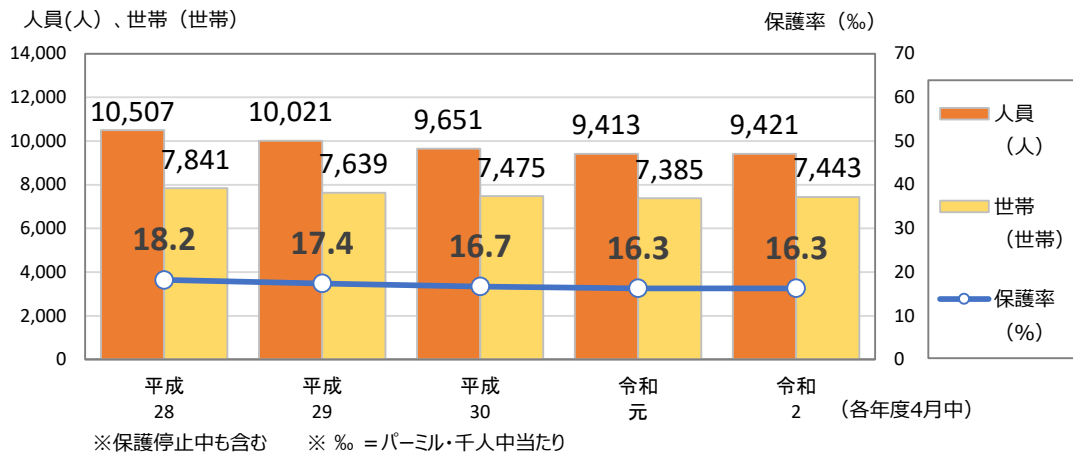
出典:「八王子基礎データ集2020」

■生活困窮者の新規相談受付件数の推移



出典:「八王子基礎データ集2020」

■生活保護の状況(人員、世帯、保護率)



出典:「八王子基礎データ集2020」

- 「要介護(要支援)」が必要な人は、介護保険制度が導入された平成12年から約2万人増えています。
- 本市の地域活動を支える人材や団体の状況は下表のとおりで、多くの項目において増加しています。ボランティアセンターへの登録については、平成11年に比べ個人は半減しているものの、団体は2.5倍に増加しています。

■要介護(要支援)認定者数の推移



出典:「八王子基礎データ集2020」

■地域資源の状況

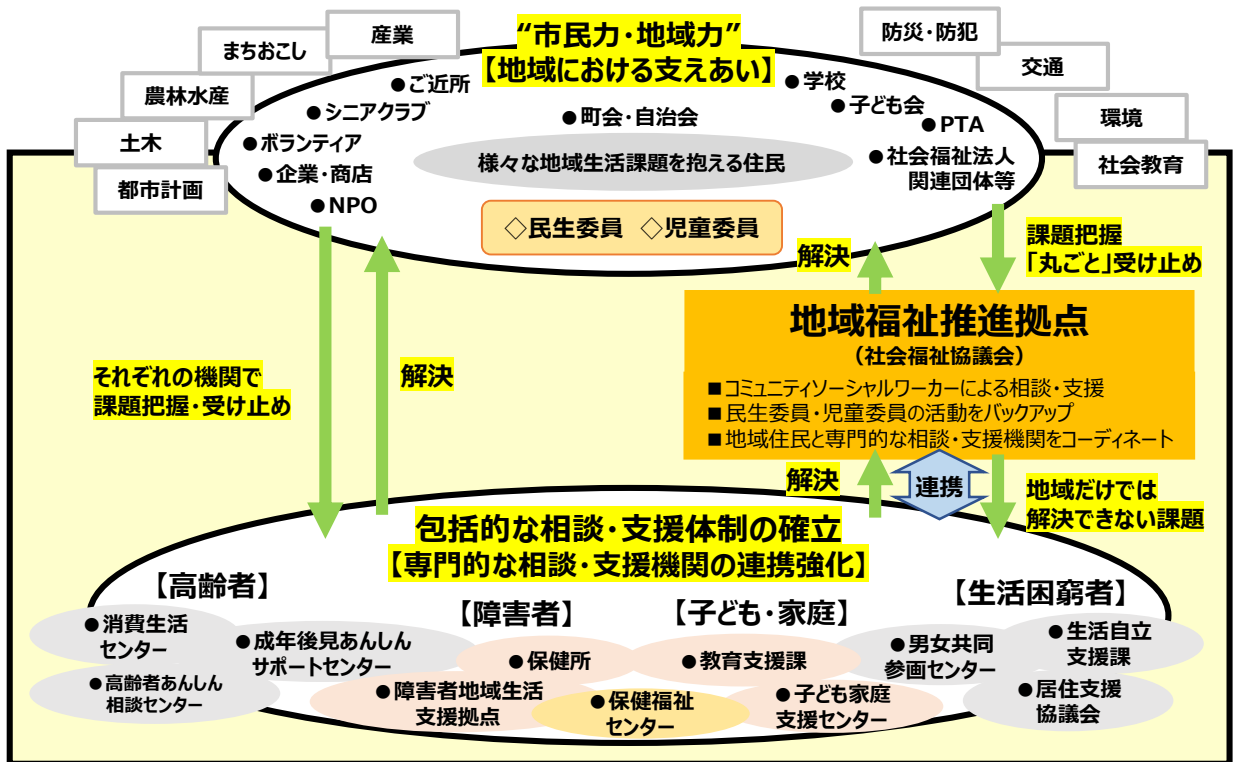
地域資源の状況				
民生委員・児童委員		336 人 (平成11年4月1日現在)	→	448 人 (平成31年4月1日現在)
町会・自治会	団体	507 団体 (平成11年7月1日現在)	→	576 団体 (令和元年6月1日現在)
	加入世帯	142,784 世帯 (平成11年7月1日現在)	→	151,818 世帯 (令和元年6月1日現在)
NPO法人		15 団体 (平成12年3月31日現在)	→	276 団体 (令和2年3月6日現在)
高齢者ボランティア・ポイント制度登録者		494 人 (平成21年3月31日現在)	→	2,842 人 (令和2年3月31日現在)
高齢者サロン		52 か所 (平成21年3月31日現在)	→	185 か所 (令和2年3月31日現在)
シニアクラブ会員		21,021 人 (平成12年3月31日現在)	→	13,561 人 (令和2年3月31日現在)
ボランティアセンターへのボランティア登録	団体	124 団体 (平成11年4月1日現在)	→	307 団体 (令和2年3月31日現在)
	個人	920 人 (平成11年4月1日現在)	→	437 人 (令和2年3月31日現在)

出典:「八王子基礎データ集2020」

(2) 暮らし・福祉

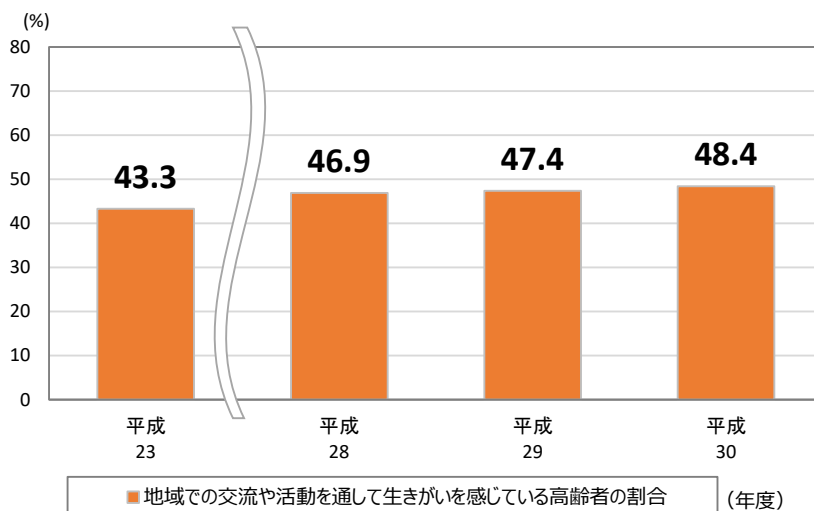
- 本市では、多様化する福祉課題に対して「包括的な相談・支援体制」を推進しています。
- 「地域での交流や活動を通して生きがいを感じている高齢者の割合」は、増加傾向にあります。

■本市における「包括的な相談・支援体制」のイメージ(地域福祉計画)



出典:「八王子基礎データ集2020」

■地域での交流や活動を通して生きがいを感じている高齢者の割合(推移)

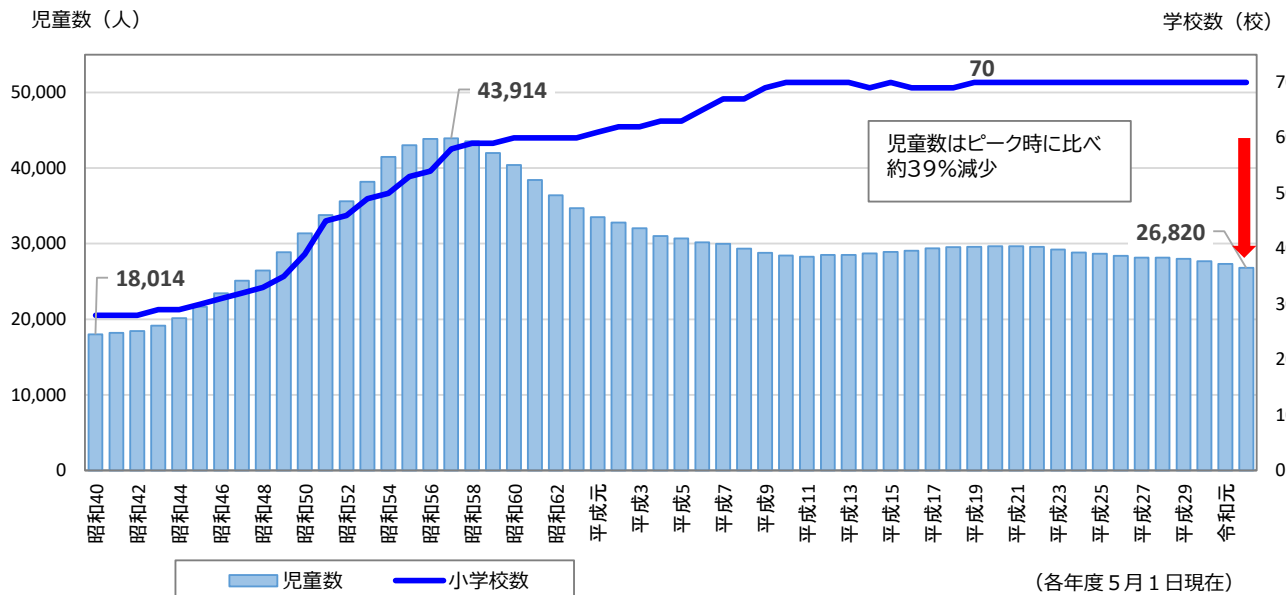


出典:「八王子基礎データ集2020」

(3) 教育・子ども

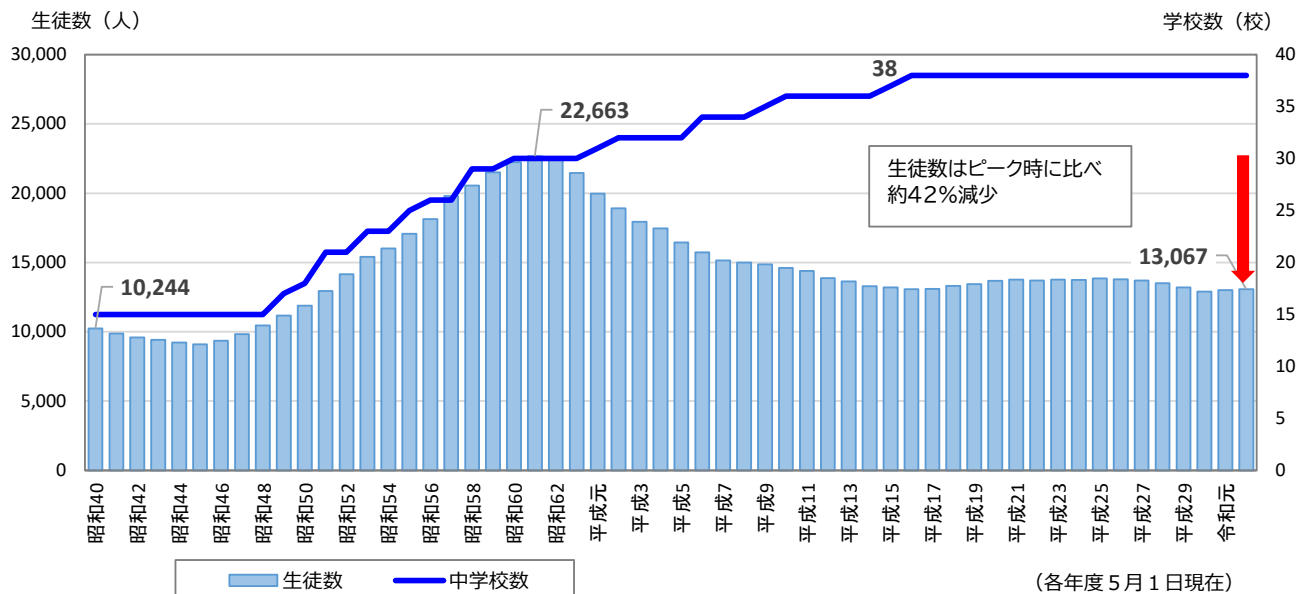
- 小学校の児童数は、令和元年度(2019年度)には26,820人と、昭和57年度(1982年度)のピーク時(43,914人)に比べて約39%減少しています。一方で、学校数は昭和57年度(58校)より12校増加し、70校となっています。
- 中学校の生徒数は、令和元年度(2019年度)には13,067人と、昭和61年度(1986年度)のピーク時(22,663人)に比べて約42%減少しています。一方で、学校数は昭和61年度(30校)より8校増加し、38校となっています。

■小学校の児童数と小学校数の推移



出典:「学校教育政策課資料」

■中学校の生徒数と中学校数の推移

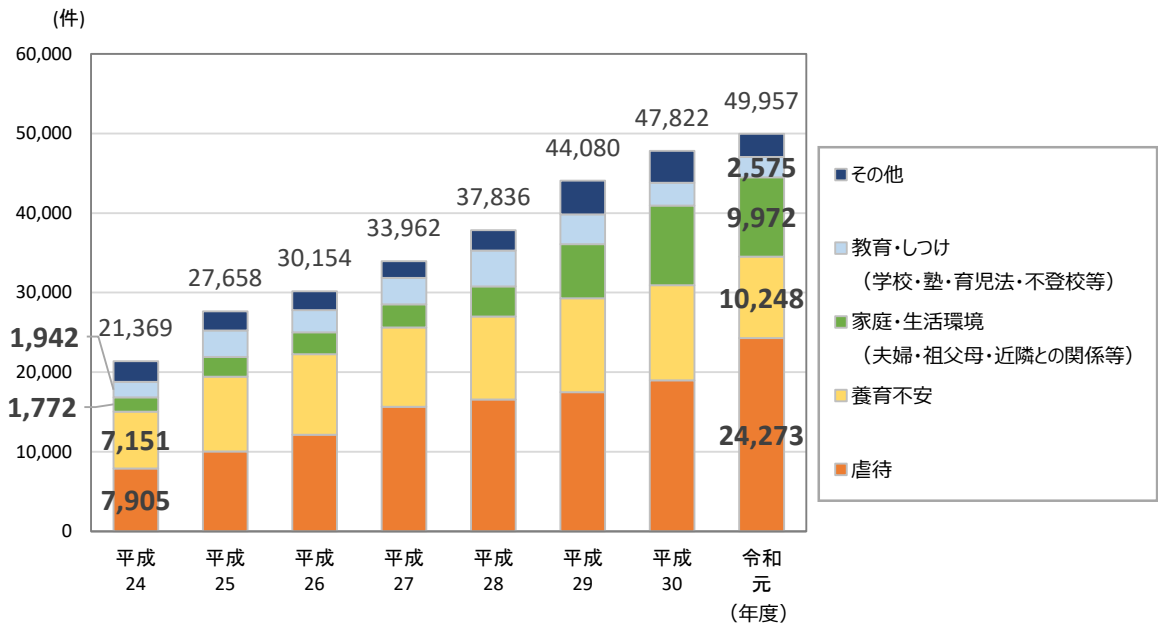


出典:「学校教育政策課資料」

(3) 教育・子ども

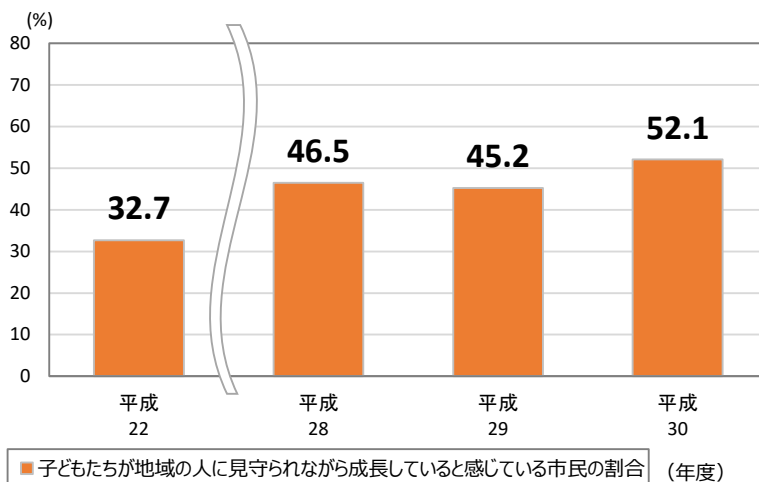
- 「子どもと家庭に関する総合相談件数」は、年々増加しています。
- 令和元年度の「相談内容」では、「虐待」の相談が最も多くなっています。続いて、「養育不安」、「家庭・生活環境」の相談が多く、この3項目で全相談の90%近くに達します。平成24年度比では「家庭・生活環境」の相談が5.6倍、「虐待」の相談が3.1倍になっています。
- 平成30年度の「子どもたちが地域の人に見守られながら成長していると感じている市民の割合」は、平成22年度に比べ19.4ポイント上昇しており、50%を超えました。

■子ども家庭支援センターにおける子どもと家庭に関する総合相談件数の推移



出典:「八王子基礎データ集2020」

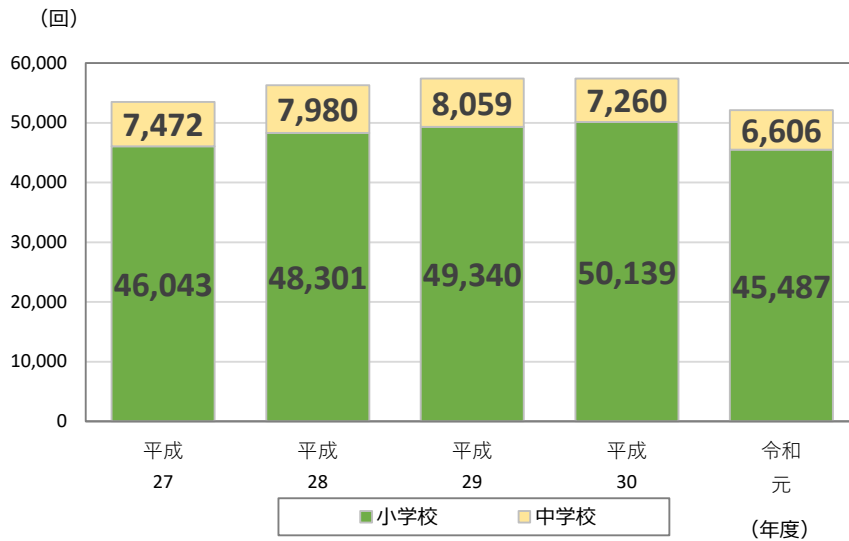
■子どもたちが地域の人に見守られながら成長していると感じている市民の割合(推移)



出典:「八王子基礎データ集2020」

- 「学校と地域が連携して行う取組数」は近年増加傾向にありましたが、令和元年度に減少しました。
- 「学校と地域が協力して子どもを育てていると感じている市民の割合」は増加傾向にあります。

■学校と地域が連携して行う取組数の推移

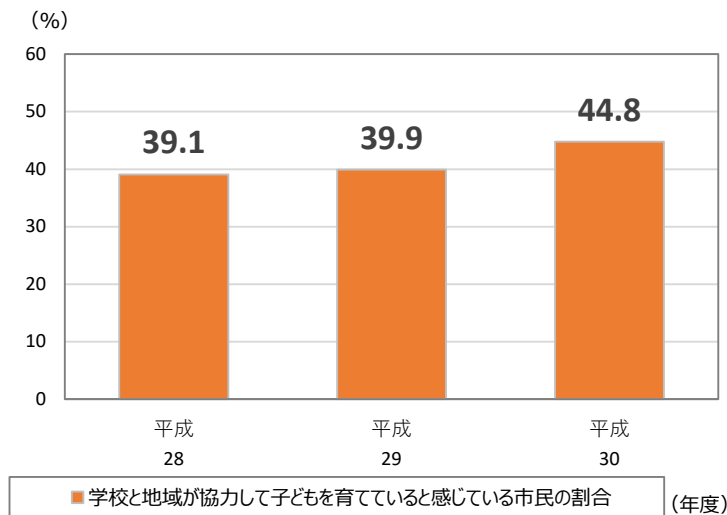


※取組とは、学校行事、地域まつりなどのイベント、美化活動、地域パトロールなど

※令和元年度は、3月2日より市立小・中学校は臨時休業

出典:「八王子基礎データ集2020」

■学校と地域が協力して子どもを育てていると感じている市民の割合(推移)

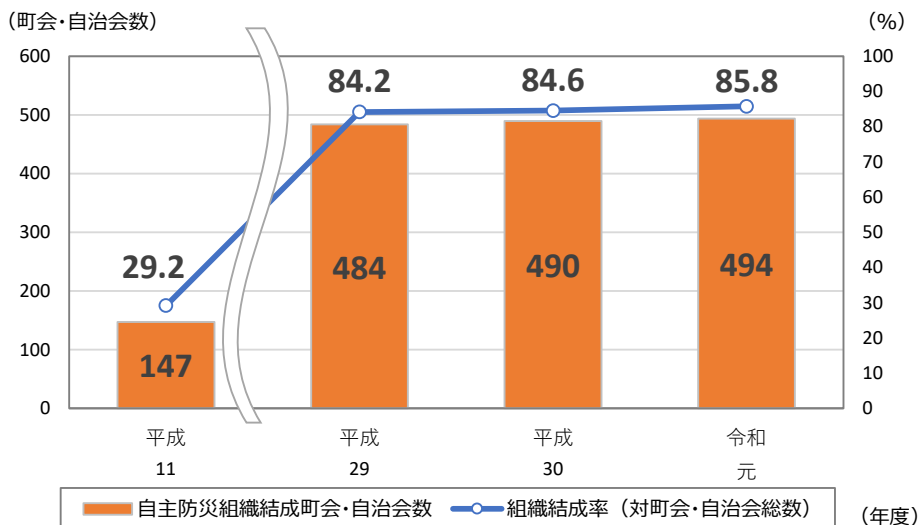


出典:「八王子基礎データ集2020」

(4) 防災

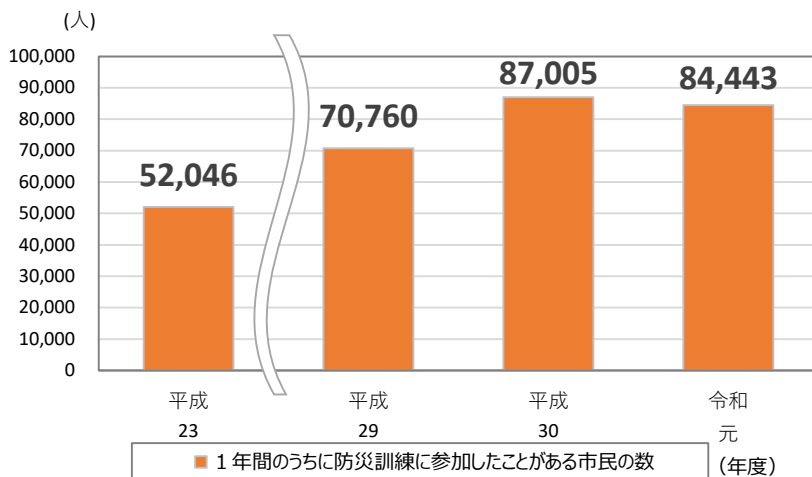
- 令和元年度の「自主防災組織を結成している町会・自治会数」は、平成11年度に比べ3.4倍になっており、85.8%の結成率となっています。
- 令和元年度の「1年間のうちに防災訓練に参加したことがある市民の数」は、平成30年度に比べ微減していますが、平成23年度と比べると1.6倍になっています。

■自主防災組織結成町会・自治会数及び結成率の推移



出典:「八王子基礎データ集2020」

■1年間のうちに防災訓練に参加したことがある市民の数(推移)



出典:「八王子基礎データ集2020」